

## キノコの駒打ち作業報告

日 時：令和2年3月17日（火）、晴れ

場 所：ときがわ町

森林インストラクターの森

参加者：8名

報告者：浅井修三



3月17日、8名でキノコの駒打ちを行いました。気温12度とそんなに暖かくはありませんで

したが、晴れで風もなく太陽の陽ざしもあり、活動しやすい一日でした。2月に伐採したほだ木50本ほどに、シイタケとナメコの種駒それぞれ400個を打ち込みました。シイタケ班とナメコ班に分かれ、丸太にドリルで穴を開けるもの、穴に種駒を埋めるもの、それを打ち込むものと流れ作業で、一丸となってあっという間に駒打ちを終了しました。打ち込んだ丸太を一本一本、ヒノキ林の下に、地面に触れるように並べて配置しました。すでに春になって、暖かくなっているため、直接林の中に置く「本伏せ」というやり方でした。日光がチラチラ入る場所で、水はけも風通しもよいというのがほだ木の最適の条件なので、ちょうど条件に適った場所でした。配置するにあたり、今まではどの木に何を打ち込んだのかわからなくなる場合が多かったため、一本一本の丸太に樹木の名前を付けた札を取り付けました。すべて分業で、万全な(?)手の込んだ整理を行いました。



今回の駒打ちのポイントは、いろいろな種類の樹木を使い、これらのほだ木にどのようにシイタケやナメコが出るのか試験的挑戦です。本来、シイタケの原木はナラ、クヌギ、シデ、クリで、ナメコはブナ、トチノキ、イタヤカエデ、ホオノキなどです。ところが、帰り際に、驚いたことに3~4年前に種駒を打ち込んだトチノキに多量で大きな肉厚のシイタケが発生していました。トチノキの原木はナメコという定説が覆りました。実際、やってみればいろいろなことが分かってきます。それと、2年前に植えたコナラ2本にシイタケが、1年前のカツラの木にもシイタケがでていました。思いがけない収穫があり、一人当たり10個ほどのシイタケをお土産に持ち帰りました。

**シイタケ・・・アカメガシワ 11本、コナラ5本、クリ2本、カリン、サンゴジュ、カキ(各1本)**

**ナメコ・・・ヒノキ 23本、アカメガシワ、クリ、カリン、サンゴジュ、カキ(各1本)**



(左から)

トチノキに出たシイタケ

2年前のコナラ

1年前のカツラ